

幻の茂浦鉄道

所長 平野 忠

茂浦鉄道というのをご存じでしょうか。現在当研究所のある茂浦地内に、明治の末頃計画された鉄道です。研究所の40年誌をまとめるにあたり、平内町史（昭和52年）にこれを見かけたので、以下に引用します。

『明治26年、榎本武揚は茂浦港と朝鮮雄基港の外国航路を計画したが、時の首相大隈重信の時代に帝国議会の承認を得ることが出来なかった。その後、明治39年に再び茂浦築港と鉄道敷設計画が茂浦鉄道株式会社梅村社長によって進められ、これが認可を得る処となり、本格工事が進められたのは明治42、3年の頃であった。工事の概要は、現県立水産増殖センター附近に築港工事して、ここから鉄道を敷設し、南方山麓から隧道を掘り、小豆沢に抜けて東北本線に結ぶ計画のものだった。三ヶ年程にして隧道工事も進み、村から隧道に至る間の鉄道用地の整備も進み、軌条を敷く段階迄進捗した。一方築港も防波堤の投石事業が一部着港を見る迄に至った。（中略）然るに着港以来数年にして資金その他の関係で工事中止のやむなきに至り、一切の計画も投資も空しくなってしまった。垣合地内の水路に架された溝橋（鉄筋コンクリート）は、当時鉄道敷設のために

工事したのだが、今日尚破損することなく昔の面影を止めている。（後略）



茂浦鉄道工事の溝橋（平内町史より）

水産増殖センターが建設された昭和42年まで築港の石垣が残っていました。

なお、当時の村は工事の労務者が入り、酒場も営業されて活況を呈したそうです。鉄道用地として売り渡した水田は、工事中止により元の所有者が小作人となっていましたが大正に入って小作料値上げ要求があって争議となり、淡谷悠蔵氏によって調停され小作人へ売り渡されたそうです。

さる4月22日、茂浦支所の須藤常任理事にこの話をすると、溝橋のある現地に行ってみようということになり、常任の4WDのトラックで茂浦字垣合にある溝橋に行って撮ったのが右の写真です。



現在も同じ場所に残る溝橋のそばに立つ須藤常任理事

百年近く経つのにびくともしていないのに驚かされます。当時のコンクリートの品質の高さが実証されます。同じようなものに大間鉄道のトンネルや橋が今もむつ市から大間町までの間に残っていますが、それよりさらに30年は古いものです。

この橋の先に小豆沢までのトンネル跡があるはずですが、さすがに藪を漕いでいく元気がな



溝橋の上の軌条敷設面から小豆沢方面を望む

く断念しました。なお、常任たちは子供の頃この溝橋をトンネルと言って遊んでいたそうです。

また、現在工事が進められている茂浦～浦田間のトンネル工事現場へも行ってみました。トンネルそのものはまだ着工されておらず、トンネル工事面までの道路や橋を建設中でした。



茂浦～浦田トンネルの工事面

立地地域を探索する今回の調査でしたが、頓挫した茂浦鉄道の跡と、それから百年を経て最新技術で建設される新トンネルの建設現場を同時に見ることができ、感慨深いものがありました。